

1300組合員の草の根運動で 職場・地域に「基金運動」広げよう



81.9.8
No. 840

国鉄千葉動力車労働組合
千葉市要町二一八(動力車会館)
(鉄電)二九三五(六・公衆)品五(22)七二〇七

全ての組合員の皆さん。闘う全国の仲間皆さん。
九月八日現在、「動労千葉支援基金」が遂に、二四六一万五七二三円の巨額に達したことを喜びと感謝の念をこめてここに報告いたします。
全国津々浦々、厳しい条件下で三里塚の勝利にジェット闘争の勝利のために闘い続けられている反対同盟・支援共闘はじめ何十万何百万という闘う仲間たちの熱情もつた一円一円の暖かさ重さをひしひしと感じると共に、身のひきしまる感じをおさえる事ができません。

基金運動の拡がりに驚き 悲鳴あげる「本部」反動分子

「組合員の得にならない無意味なスト」と悪バを投げかけて三月決戦ストに敵対をくり返し、軍手がもたらしたから」と当局の尖兵になってスト破りを率先して行い、ホームや駅前に集まった反対同盟や支援を「不法侵入で逮捕しろ」とまで千葉県警を激励した、あの卑劣な「本部」反動分子どもは、今また、この支援基金運動の全国的・単産的拡がりと二千数百万円に及ぶカンパという事実を眼のあたりにして完全に焦り、恐怖しています。それはデッチ上げ『千葉地本情報』で再三にわたって「労組の身売りだ」「財政バンク、組合費の実質値上げだ」などという必死のケチつけをくり返している中にはつきりと見てとれます。

そもそも闘争というものは——真に敵の心臓部をえぐるような打撃力をもった闘争ならなおさら——敵の弾圧との対決をあらかじめ避けて温室の中でだけ成り立つ様なものではありません。弾圧との対決、闘争による出費等を前提に構えて闘いを計画し、武装し、(その事をちらつかせて闘争を未然に押さえこもうとする権力や当局の恫喝をうちくदैいて)自らの身を切りさいても「闘うべきときには断固として闘いぬく」力と体制を常に創造していく時にはじめて勝利できるものだという事は自明のことです。「二〇二億円損賠」「処分」という一言の前で全ての闘いを投げ出していく構図からはとめどもない後退と腐敗を生み出すだけですから、とりわけ、広汎な仲間から支援カンパをうけてでも、闘い続けることを指して「身売りだ」などとバトウする精神は断じて闘う労働者の精神ではありません。権力や当局、あるいは右翼的裏切者の発想です。

基金運動の拡がりと、それに対する「本部」反動分子の金切声の悲鳴は、わが動労千葉の路線の正しさと闘いの成果をますます確信させてくれるものです。
ジェット闘争を闘い続ける動労千葉一三〇〇組合員の心の中には、「ジェット闘争というものは、これを闘ったからといって子供にアメの一つも買

つてやれる闘争じゃありません。どんなに苦しい事があるかも知らん。だけど私たちは、お天とう様の下を胸はって歩ける労働者になりたいんです。だから闘うんです。」と言って最前線に立ち闘いぬかれた成田支部の前支部長・村上さんのあの感動的な言葉と精神が今も脈々と流れていることを誰もが実感しているからです。

今秋総決起と固く結合させ、 基金運動の更なる発展かちとろう

このように「基金」とは即ち「運動」であり、動労千葉の決起を軸に、どんな弾圧にもめげない八〇年代の新しくたくましい運動と組織を社会のすみずみから掘り起こし、創造していく日本の労働運動史上はじめての画期的な試みであります。だからこそ、この一円一円の重みの中に三里塚を闘う人々はもとより、右翼の労働統一の波の中で苦闘する総評傘下はじめ多くの労働現場からの期待と決意のこもった運動として、着実に単産に浸透していつているのです。この5ヶ月間の偉大な成果にしっかりとふまえ、一時もこれに甘えたり、安住したりせずに、動労千葉一三〇〇名一人一人が運動の積極的な組織者・活動家となって全国の全職場・地域をくまなくオルグして歩き、交流・連帯の輪を拡げ、自らを真の労働者階級としてきびしくきたえあげ、三里塚・ジェットの勝利、日本の労働運動の戦闘的再編強化をもって、今日、急進展する軍事大国化に戦争への道を最先頭で阻止していくしっかりとした橋頭堡を築いていこうではありませんか。

今春に続き、すでに、むこう一ヶ月間のみでも全国三十数箇所からの交流要請が来ています。
10・11総決起をめざして、再び全国各地の連帯交流集會に、地域労組との交流に、自らの体験と決意をひっさげて「オルグ団」としてうって出よう！
今春の青年部単独の先駆的な職場・地域単産・街頭のよびかけだけでも、一〇支部合計七八万円以上が基金として結集された実績があります。自らの職場と地域、労組・街頭に、われわれの闘いを訴え、支援基金をよびかけ、「一人一口」獲得運動をどんどん押し進めよう！